(一)　郵昭和二十一年六月一日（第三種郵便物認可）　昭和二十二年九月十九日　いわき民報　（金曜日）　第四百二十二號

いわき民報

社　いわき民報　所　発行　編集兼印刷人　巳克輝　千人　（但月ヶ一回）　定價一部一円十五銭　（日曜を除く）　一ヶ月十円　一部十五銭　平市田町八四番地　電話一七六番

東軍連勝か西軍雪辱か

全日本東西對抗庭球大會迫る

核の軍的待期
躍活の連手選身出市期

軟式庭球の最高峰をゆく日本軟式庭球連盟主催の全日本東西對抗庭球大會はきたる二十一日から四日間市内田町の新設市營コートで開催されるが、その日割は左のとおりだが、市スポーツ連で田村五郎氏を大會委員長に擧げ三十萬円の巨費を投じ諸準備を急ぎ、ほぼ整うた、なお昨年は地元平市出身選手の敢闘により大勝を博したが、本年も平市出身選手が東軍の中核をなしているので、果して昨年に續いて市出身の選手連の健闘がよく西軍の肉迫を退けて輝く連覇の偉業を達成するか、或は又長途遠征の關西軍が克く東軍の鋭鋒をかわして雪辱、榮冠を西に奪ひ去るか、西軍の實力が文字通り伯仲しているだけに豫斷を許さず興味まさに浸々たるものがあり新設コート上已に戰雲をはらみファンの血をわかせている又男子壯年對抗は本年が第二回であり成年對抗は第十四回目である

◆九月二十一日（午前九時）男子壯年對抗戰

◆九月二十二日（午前九時）男子成年對抗戰

更に一勝一敗の際には二十四日に決勝戰を行うことゝなつている

小名濱農地特別發賣會

小名濱町農地委員會では第一第二期の買收も決定と見たので第三期在村地主の餘剩耕地買入れに入る前提として十九日午前八時より特別委員會を召集するに決定

砂糖と酒近く配給

酒經濟課では赤ちやん用の砂糖一般家庭用の酒の入荷通知が入つたので近く配給すべく準備をいそいでいる

◎砂糖　數へ年七才迄の幼兒に一人當り二十グラムの割で九月中に配給する、市の割當は二、八四七斤

◎酒　九月中の割當は一〇石五升と決つたが成年男子一人當りの配給量は一合くらい、おそくも二十二、三日ころは配給になる

揚繰船新興丸大破

小名濱港に繫留中激浪のために

小名濱町漁業比佐政禮氏所有のアグリ船新興丸（三〇ト）は十七日朝七時頃同港内に停泊中、台風による激浪のため岩壁に打ちつけられ大破したが幸ひ人命に損傷はなかつた

損害五十萬円

新制中學生スリを働く

二時間半に五回

新制中學二年の少年がわずか二時間半のあいだになんと五回のスリを働き平署に檢擧された、内郷町高坂新制中學二年軍兵三男坂倉忠孝（一五）假名は十五日午前十時頃市内三丁目地内で皓寶りの見物人婦人の手提げに手を入れたところを發見され平署につき出された

暴行未遂

十六日湯本町字關船農業馬場正一（二〇）―假名は强姦未遂で平署へ檢擧された、同人は去る八月二十九日夜磐崎村長倉の祭で踊つての歸り下湯長谷野田定子さん（二二）―假名を强姦せんとし未遂に終り、所持した剃刀で顔面に傷を負はせて逃げたもの

豐間港倉兩港被害

台風の被害はいよ〳〵甚大

同胞援護會縣支部では援護資金募集運行のため東京大相撲東京十二行百二十名を招き來月から縣下十四ケ所に開くが那下では平市と小名濱町の二か所の豫定

◆衣料品店令錄、御多聞に洩れず客の爭奪戰の激しさ、ただ大衆は目を白黑

◆東西對抗軟式庭球迫る選手のみでなく市民も大いに張り切るべし

◆政府の物價引上げとヤミ値の驟走正に白熱的の接戰、果して軍配はいづれに上る？

◆値上げ驟走の犧牲になる大衆こそよい面の皮、いよいよ手も出ず足も出ず、最後は尻も出ません

言すきわい

基準給二千六百圓要求

配炭公團常磐支部臨時大會で

配炭公團常磐支團の支部第一回臨時大會は十五日午前九時から配炭支團内に開き現下の國内情勢と各組合の情勢および支部の概況について報告の後給與問題につゝたが、基準給二千六百円案を公團側に要求することゝした

大島檢事正初巡視

福島檢察廳檢事正大島染吉氏は十八日午後一時十三分平着で着任した

本内警部補着任

郡山署から平警司法主任に榮轉の本内警部補は十八日午後一時三十分平着で着任した

常磐線開通二十四日頃

十八日夕刻開通發定とみられた常磐線上り平―勝間の復舊作業はその後進捗はしているがおもはしくなく二十四日ごろ開通とみられるにいたつた

文化團体慶組調査

市では文化團体および厚生團体および慶民組合等のいつせい調査を初巡視を行うとゝもに管内各官公署等に挨拶廻りを行つた

告!!

業務ノ申合セニ依リ兩今仕事ニ直接關係ナキ寄附ハ絶對ニ御斷リ致シマス

右何卒御諒承願ヒマス

昭和二十二年九月十八日

平市七丁目四番地

福島縣アンプル工業協議會

加入者

新星硝子工業株式會社
新日本アンプル工業有限會社
東北硝子産業株式會社
東洋アンプル工場
旭アンプル製作所
大塚アンプル工業所
桑原アンプル製造所
太田アンプル工業所

古文書紙上公開　15

飯野文書解説

猪俣金五郎

一五、地頭（承前）

好島庄の地頭達の經濟力には、どんな差等があつたものだろうか。これについては、八幡宮の費用を配分したものが種々あつて、大体の見當がつくようになつている。まづ文永十一年八月六日（六七三年前）の日附のある目錄を拔き書きする。

八幡宮鳥居番匠作料並厨鐽配分事作料壹貫貳百文内
錢四百文　西庄分
錢八百文　東庄　内
三百文　大野　加奈木（『なぎ』を加う）
百文　片寄
百文　衣谷（きぬや）
百文　富田（とだ）
百文　田富（たど）
百文　比佐（ひさ）加
紙谷也（『かびや』を加うるなり）

『番匠（ばんじよう）作料』と言うのは、大工の賃錢のことで『厨（くりや）』と言うのは、其の食事のまかないのこと、『鐽』は『かすがひ』と讀んで材木を合せるに用いる釘のようなものであるが、神社の鳥居を建てるに當つて、それらの費用を分擔した目錄である當時好島庄は大きく東西の二郷に分れ、それが又幾つかの村々に區分されていた。大工の手間賃一貫二百文（但しこれは十二日分の日當であつて一日分は百文である。）を西方で四百文、東方で八百文受持つ事になつていて其の東庄の分がさらに小さく村々に割當てられている。村の名の中で『奈木』は今日の『名木』であろうし、『衣谷』は『絹谷』であり二『富田』や『田富』は戸田、田戸を表はし、『比佐』は『久の濱』附近で『紙谷』が『神谷』であるのも面白い。『加奈木』は『奈木を加う』である。

一、番匠厨十二日　内
西庄分　四ヶ日
東庄　八ヶ日　内
三ヶ日　大野
一ヶ日　片寄
一ヶ日　衣谷
一ヶ日　富田
一ヶ日　田富
一ヶ日　比佐　紙谷

これは大工の『まかない料』の分擔であるが、賃金の配分と同じ割合である事が一目でわかる。これで見ると、東庄の中では、大野の地頭が最も裕福で、『名木』を合せると他村の三倍を負擔している。

此の時の西庄の細かい割當では分らないが、これから二十年ほど後になつて、永仁五年八月八日の日附で、やはり『八幡宮御鳥居番匠作料厨雑事配分事』と言う目錄があるが、これには、西庄の割當てだけが書かれている。それを見ると

百五拾文　白米五升　東目
地頭分
百五拾文　白米五升　好島
地頭分
三百文　白米六升　新田分
百五拾文　白米三升五合
今新田分
九拾文　白米三升五合　小谷佐古分
三百六拾文　白米四升五合
百三拾文　白米三升　小島
佛崎　矢河子

となつている。今日は『北目』と言う地名はあるが『東目』と言う名は傳はらぬし、『新田』や『佛崎』も確實には分らぬ。『小谷佐古』は『おやさく』で『矢河子』は『やがはせ』である。これで見ると、西庄では新田太郎師隆の子孫が、一ばん富裕らしい。地頭の話も、これで一先づ筆をおいて、後は必要に應じて述べることにする。

郡下の定員一三五軒

登錄衣料品小賣店舗割當決る

【既報】衣料品の切符配給にともなう末端小賣店の登錄は選擧により行うことゝなり縣では十九日午前十時から平市第二小學校に平、石城、双葉相馬一市三郡下の町村關係者の參集をもとめてこれが打合せ會を開いて具体的事項を發表するが、登錄の基準と選擧の方法等はつぎのごとくであり石城郡下の定員は一五三軒と決定した

選擧の方法（1）選擧區　地方事務所（市は所在地方事務所に含める）の區域とする、從つて居住地の地方事務所内のどの店を選擧してもよい（2）立候補居出　有資格者は廿三日までに居住地の地方事務所に登錄申請書に添へて提出、立候補者名簿は投票日までに一般家庭に渡る（3）投票　一人一票、世帶ごとに所定の投票用紙（市町村より渡される）に世帶員の投票合計を記入する（4）投票區および開票區　市町村の區域市などは數區に分けられる（5）無效投票　普通の選擧の場合に準じ正規の用紙を用いなかつたり候補者の氏名のほか他のことを書くと無効

なお選擧事務を円滑に行わせるため市町村長は選擧管理委員會をつくり投開票所その他の指導、監督する、また地方事務所長または市長が委員長となり資格審査委員會をつくり立候補資格の審査、立候補者名の周知徹底、選擧結果の確認などを行う

登錄の最低基準　登錄店は人口二千人に一店を基準とし本縣では一千店が當選圏さらに千票に投票率を乘じて得た數が最低得票基準でこれに達しないと登錄しないもっとも得票數が偏在したり人口の少い農山漁村などでは縣纖維諮、委員會にかけ基準數をさげることもできる

登錄の順位　地方事務所ごとに人口比による定員を設け、最高得票店より定員までとるか、ただし現存業者は最低基準數（千票に投票率を乘じた數）以上の得票があれば登錄店になるなおこの登錄店は六か月ごとに改選する、次回の投票では現存新規の區別を一切つけない、この選擧によつて選ばれた登錄小賣店は衣料販賣する資格が與へられただけだから消費者は同じ地方事務所管内などの店から買つてもよい

中島衛生部陣容整備す＝小名濱町では厚生委員會の決定に基いて衛生組合規定の改正を行い組合長外區長世話掛等何れも選擧に依る事となつたので第二區中島世話部では十六日何れも選擧を行い左の通り決定した

▲區長江尻三睦郎▲世話掛飯塚勝、小野辰吉、砂押忠吉、内山治德、永山盛枝、後田義次

ひどい仕立屋＝市内北白銀町洋服仕立業濱中正男（三五）は研町平士木監督所勤務吉村三郎さん（二二）から今夏七月ホームスパンの仕立を請合い前金として三千円を受取つたにもかゝわらず仕立せずに消費していること發覺、平署へ檢擧

ダイヤの賣込中を＝赤井村で十六日自轉車のタイヤ及びチューブをヤミで賣り込まんとしている男を平署で檢擧した、同人は住所不定佐藤太郎（三七）で東京の叔父からタイヤ三組チューブ十二本を仕入れ一儲けしようとしていたもの

促進委員會も結成

小名濱第三校建築の圓滑を期し

小名濱町では第三小學校建築問題について十六日午後一時から同校に蛮玉川村十部落有志四十八名の參集を求めて、町側から樋口町長を始め町會委員連が出席、種々懇談の末これが促進の宗全円滑な工事の進捗を期するために、町會側と蛮玉川側代表等五十名に依つて二十日までに建築促進委員會を結成することゝし、その委員割當を左の通りに決めた

町會五名、住吉、大原各六名、野田、島、林城、南富岡、岡小名各三名、岩出、金成、相小島、各二名、青年會男女各五名、學校二名

ミシン
販賣・修理・部品
平二丁目シンガー
イシカワ

社員募集
一、外務員　數名
（一）金融ノ世話ニ從事希望ノモノ
（二）經驗、年令、男女ヲ問ハズ親切心ノアルモノ
（三）履歴書持參本人來社ノコト委細面談ス
平市紺屋町十八番地
株式會社　福島無盡金庫平支店
電話一三一番

當社長長男佐藤孝儀　葬送の際は遠路御多用中にも拘らず御會葬下され剰へ御鄭重なる御香料等を賜りましたる御厚志の段厚く御禮申上げます
一々拜趨御禮申上ぐべきの處取敢へず紙上を以て御禮申上げます
昭和二十二年九月十八日
平市月見町
合資會社　佐藤鐵工所

長男孝儀　葬送の際は御多忙中にも拘らず態々御會葬下され剰へ御鄭重なる御香料等を賜り御厚志の段有難く厚く御禮申上ぐべきのところ取敢へず紙上を以て御禮申上げます
昭和二十二年九月十八日
平市月見町
父　佐藤源吉
親戚總代　栃内賢五郎